

全国大会

昭和五十年五月十五日（木）
於 六甲祥龍寺 及び

六甲山オリエンタルホテル

新緑の饗宴に目くるめく様な五月の空の下、六甲連山は装いも新しく快晴に照り映えて、むせ返る香ぐわしさを発散させて居る。六甲川のせらぎに添うて数丁、祥龍寺の庭は二百名に近い善男善女に埋めつくされた。此处は以前に三度も辰巳会の会場になった事があるので特別に馴染みが深い。わけても今年の全国大会は創立十



る受勲者を披露、勲二等の大幡久一氏、山野上重喜氏、市川恒雄氏、熱四等の中畔登鬼男氏に御祝辞を申上げ、今日御出席の大幡、山野上両氏に花束を贈呈、破れんば

かりの拍手の渦が巻く。別項所載の如く大幡さんは心懐を傾けて頌徳碑々文を揮毫され、大きな重責を果たされた上、今又栄光ある受勲に輝き、今日の喜びの重要なポイントを占められ、私等も喜びにあやかり心はずむのを禁じ得ない。

食事が始まるとその間にあちらの席へ顔を出す人こちらの席へ声をかける人等くだけた振やかさが一ぱいである。東京の廣岡さんが「たつみ」の誌上で「会の歌」を発表されたがこの席で皆で合唱しかけられる人等くだけた振やかさが一ぱいである。東京の廣岡さんが「たつみ」の誌上で「会の歌」を発表されたがこの席で皆で合唱しようと云つて印刷した歌詞を皆さんに手渡しされる。咲笑の内に東京の有志団が氏を取り囲み関西勢が一せいに爆発して最高潮に達する。恐らくは之が前例になつてこれから会の度に歌われる事だろう。

「歓樂極わまつて哀愁あり」オ

スカー・ワイルドの言葉を借りてやがて別離の時が迫つて来る。陽

はまだ高いが六甲を探勝し度い人

もあり、遠路家路へ急ぐ人もあり

で三時過ぎ解散、自由に行動して頂く事にした。まだ名残りを惜し

むのあまり三々五々幾くつもの人

群れの流れがゆつくりと潮の引く

様に消えて行く。一年振りの再会

が、あまり三々五々幾くつもの人

群れの流れがゆつくりと潮の引く

様に消えて行く。一年振りの再会

点在する紫陽花や山躑躅、何れも皆さんの若き日の友であつたものばかりと思われますので後程人々

と導師菅宗信禪師が一山の衆侶を従えて参入、莊重な靈氣が山内を威圧する様に流れる。愈々除幕の式典がはじまるのである。故人のお孫さん、西川郁子さんが、紅白のリボンに飾られた鍔を手に静かに碑の前に進まる。固睡を始め金子、柳田、西川の各お家の墓碑が並び、今又新しく西川さんの頌徳碑が建つてさながら一群の巨星が威儀を正して居並ぶ様で、ありし昔の夙の盛時を偲ぶにふさわ

五周年に当るので、これを記念し

て当寺の一画に我々全会員の手で昔の鈴木商店支配人 西川文蔵さんの頌徳碑が建立されたのである。そして今日は五十幾年振りの新緑の饗宴に目くるめく様な五

月の空の下、六甲連山は装いも新しく快晴に照り映えて、むせ返る香ぐわしさを発散させて居る。六甲川のせらぎに添うて数丁、祥龍寺の庭は二百名に近い善男善女に埋めつくされた。此处は以前に三度も辰巳会の会場になった事があるので特別に馴染みが深い。わけても今年の全国大会は創立十

周年に當るので、これを記念し

て当寺の一画に我々全会員の手で

昔の鈴木商店支配人 西川文蔵さ

んの頌徳碑が建立されたのである。

その御命日なのである。

追谷のお墓地には鈴木一門を始

ししく快晴に照り映えて、むせ返る

香ぐわしさを発散させて居る。

六甲川のせらぎに添うて数丁、

祥龍寺の庭は二百名に近い善男

善女に埋めつくされた。此处は以

前も三度も辰巳会の会場になつた

事があるので特別に馴染みが深い。

わけても今年の全国大会は創立十

周年に當るので、これを記念し

て当寺の一画に我々全会員の手で

昔の鈴木商店支配人 西川文蔵さ

んの頌徳碑が建立されたのである。

その御命日なのである。

追谷のお墓地には鈴木一門を始

ししく快晴に照り映えて、むせ返る

香ぐわしさを発散させて居る。

六甲川のせらぎに添うて数丁、

祥龍寺の庭は二百名に近い善男

善女に埋めつくされた。此处は以

前も三度も辰巳会の会場になつた

事があるので特別に馴染みが深い。

わけても今年の全国大会は創立十

周年に當るので、これを記念し

て当寺の一画に我々全会員の手で

昔の鈴木商店支配人 西川文蔵さ

んの頌徳碑が建立されたのである。

その御命日なのである。

追谷のお墓地には鈴木一門を始

ししく快晴に照り映えて、むせ返る

香ぐわしさを発散させて居る。

六甲川のせらぎに添うて数丁、

祥龍寺の庭は二百名に近い善男

善女に埋めつくされた。此处は以

前も三度も辰巳会の会場になつた

事があるので特別に馴染みが深い。

わけても今年の全国大会は創立十

周年に當るので、これを記念し

て当寺の一画に我々全会員の手で

昔の鈴木商店支配人 西川文蔵さ

んの頌徳碑が建立されたのである。

その御命日なのである。

追谷のお墓地には鈴木一門を始

ししく快晴に照り映えて、むせ返る

香ぐわしさを発散させて居る。

六甲川のせらぎに添うて数丁、

祥龍寺の庭は二百名に近い善男

善女に埋めつくされた。此处は以

前も三度も辰巳会の会場になつた

事があるので特別に馴染みが深い。

わけても今年の全国大会は創立十

周年に當るので、これを記念し

て当寺の一画に我々全会員の手で

昔の鈴木商店支配人 西川文蔵さ

んの頌徳碑が建立されたのである。

その御命日なのである。

追谷のお墓地には鈴木一門を始

ししく快晴に照り映えて、むせ返る

香ぐわしさを発散させて居る。

六甲川のせらぎに添うて数丁、

祥龍寺の庭は二百名に近い善男
善女に埋めつくされた。此处は以
前も三度も辰巳会の会場になつた
事があるので特別に馴染みが深い。

わけても今年の全国大会は創立十

周年に當るので、これを記念し

て当寺の一画に我々全会員の手で

昔の鈴木商店支配人 西川文蔵さ

んの頌徳碑が建立されたのである。

その御命日なのである。

追谷のお墓地には鈴木一門を始

ししく快晴に照り映えて、むせ返る

香ぐわしさを発散させて居る。

六甲川のせらぎに添うて数丁、

祥龍寺の庭は二百名に近い善男

善女に埋めつくされた。此处は以

前も三度も辰巳会の会場になつた

事があるので特別に馴染みが深い。

わけても今年の全国大会は創立十

周年に當るので、これを記念し

て当寺の一画に我々全会員の手で

昔の鈴木商店支配人 西川文蔵さ

んの頌徳碑が建立されたのである。

その御命日なのである。

追谷のお墓地には鈴木一門を始

ししく快晴に照り映えて、むせ返る

香ぐわしさを発散させて居る。

六甲川のせらぎに添うて数丁、

祥龍寺の庭は二百名に近い善男

善女に埋めつくされた。此处は以

前も三度も辰巳会の会場になつた

事があるので特別に馴染みが深い。

わけても今年の全国大会は創立十

周年に當るので、これを記念し

て当寺の一画に我々全会員の手で

昔の鈴木商店支配人 西川文蔵さ

んの頌徳碑が建立されたのである。

その御命日なのである。

追谷のお墓地には鈴木一門を始

ししく快晴に照り映えて、むせ返る

香ぐわしさを発散させて居る。

六甲川のせらぎに添うて数丁、

祥龍寺の庭は二百名に近い善男

善女に埋めつくされた。此处は以

前も三度も辰巳会の会場になつた

事があるので特別に馴染みが深い。

わけても今年の全国大会は創立十

周年に當るので、これを記念し

て当寺の一画に我々全会員の手で

昔の鈴木商店支配人 西川文蔵さ

んの頌徳碑が建立されたのである。

その御命日なのである。

追谷のお墓地には鈴木一門を始

ししく快晴に照り映えて、むせ返る

香ぐわしさを発散させて居る。

六甲川のせらぎに添うて数丁、

祥龍寺の庭は二百名に近い善男

善女に埋めつくされた。此处は以

前も三度も辰巳会の会場になつた

事があるので特別に馴染みが深い。

わけても今年の全国大会は創立十

周年に當るので、これを記念し

て当寺の一画に我々全会員の手で

昔の鈴木商店支配人 西川文蔵さ

んの頌徳碑が建立されたのである。

その御命日なのである。

追谷のお墓地には鈴木一門を始

ししく快晴に照り映えて、むせ返る

香ぐわしさを発散させて居る。

六甲川のせらぎに添うて数丁、

祥龍寺の庭は二百名に近い善男

善女に埋めつくされた。此处は以

前も三度も辰巳会の会場になつた

事があるので特別に馴染みが深い。

わけても今年の全国大会は創立十

周年に當るので、これを記念し

て当寺の一画に我々全会員の手で

昔の鈴木商店支配人 西川文蔵さ

んの頌徳碑が建立されたのである。

その御命日なのである。

追谷のお墓地には鈴木一門を始

ししく快晴に照り映えて、むせ返る

香ぐわしさを発散させて居る。

六甲川のせらぎに添うて数丁、

祥龍寺の庭は二百名に近い善男

善女に埋めつくされた。此处は以

